
降夜祭

東風

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

降夜祭

【Nコード】

N9904A

【作者名】

東風

【あらすじ】

学校中が浮かれ騒ぐ文化祭。そのクライマックスたる後夜祭には何かが起こる！？

第1話

『今日より14日後に開催される我が校の文化祭の後夜祭にて四人の生け贄を捧げ常闇の国に君臨せし魔王を召喚する。

生徒諸君にはご忠告申し上げます。自分が魔王の贄になりたくなければ口を慎み、注意すること！

BY 黒の魔術師』

「なんだ、これ？悪戯か？」

榎信哉はそう呟いた。

生徒用玄関に掲げられている掲示板の前に人集りができていたため、興味本位で覗くと真つ白な紙にふざけた文章が書いてあった。

魔王？生け贄？

こいつゲームのやり過ぎだろ。

なんかニユースでも言ってたな。現実と仮想世界の区別がつかない奴がいるって。

そんなことを考えながらふと横を見ると小柄な男子生徒が立っていた。

「坂城・・・」

名前を呼ぶと坂城は驚いたように信哉を見た。

坂城祐貴。信哉のクラスメートだがおとなしく目立たない坂城とは同じクラスになって半年経つがほとんど会話したことはなかった。

かなり童顔でひよつとしたら小学生でも通るかもしれない。

そのおとなし過ぎる性格のせいかほとんど友人はいないようだが、信哉自身は特に嫌ってはいない。

「あの貼り紙読んだか？」

話掛けると坂城はおどおどしながら頷いた。

「あれ、何だと思う？」

「さ、さあ。僕にはよくわからないよ・・・」

坂城は申し訳なさそうに言った。

「ああ、俺もよくわからん。大方誰かの悪戯だな。さていつまでもこんなところにいても仕方ないし、教室行くか」

そう言って歩き出した信哉は途中で立ち止まり、どうしたらいいのかわからず困り顔で立ち尽くす坂城を振り返った。

「行かないのか？」

そう尋ねると坂城は戸惑うような、でもどこか嬉しそうな顔をして信哉のもとへ走って来た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9904a/>

降夜祭

2011年1月15日23時52分発行